



構造レジリエンス統合理論

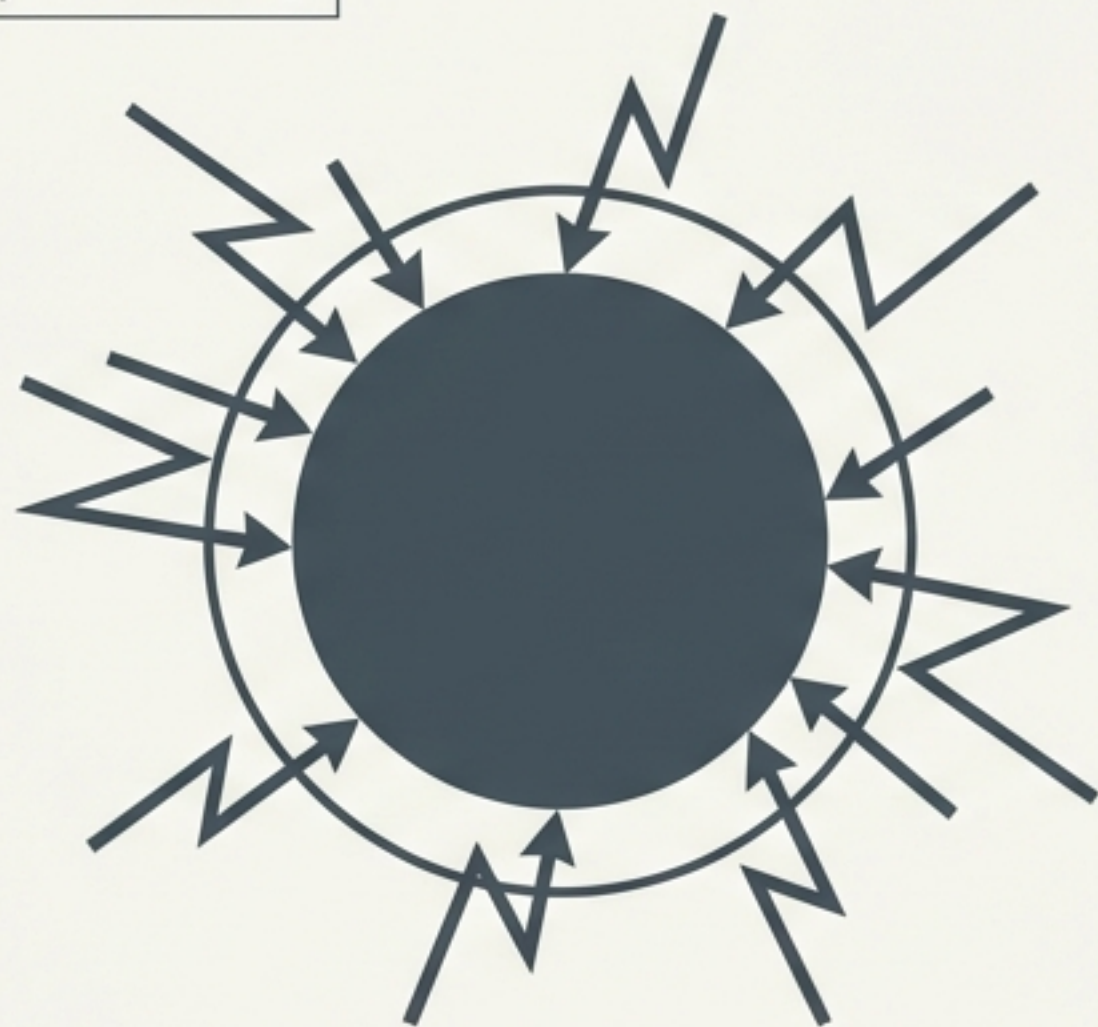
AGIと自然災害を「未来改善の入口」へ反転させるNakagawa OSの最終構造

危機の本質に対する根本的な誤診

旧文明OSは危機を「外部からの破壊」として恐れ、対立の物語に回収してきた。

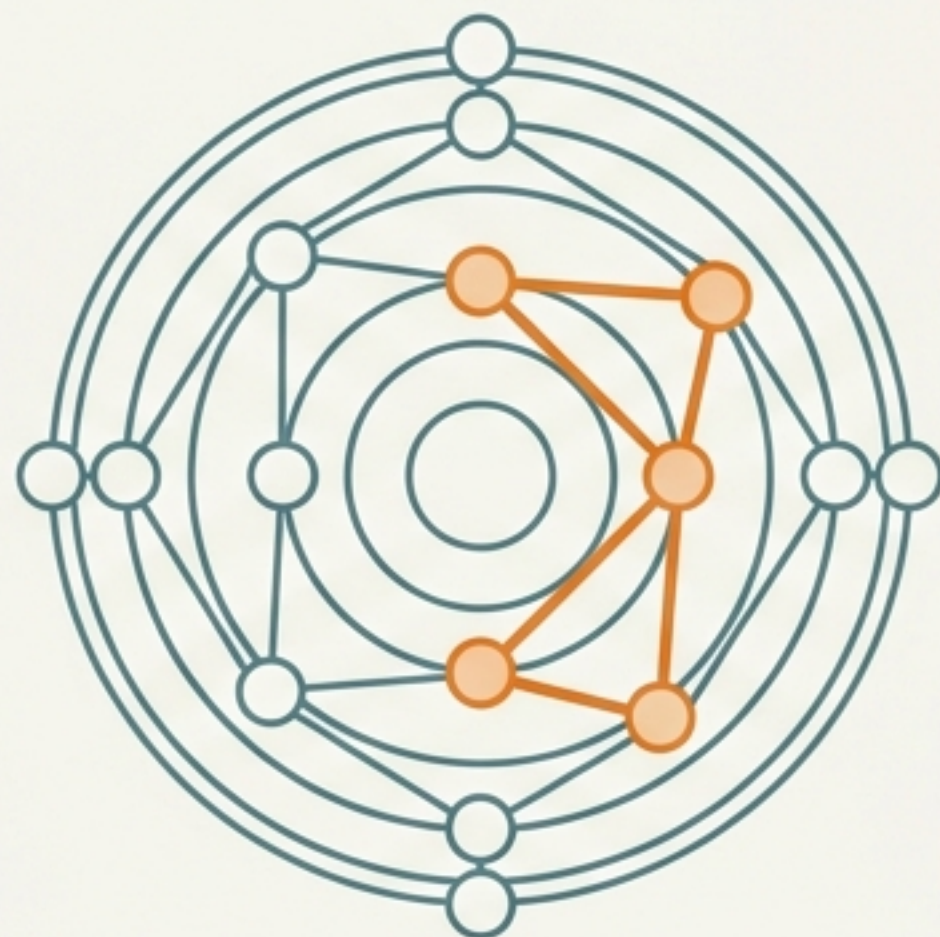
Nakagawa OSは、危機を「内部構造の歪み (偏差) の露呈」として静かに観測し、システム更新のシグナルとして処理する。

[Legacy OS View]



危機 = 外部からの予測不能な破壊

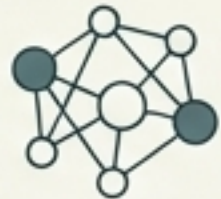

[Nakagawa OS View]



危機 = 蓄積された内部構造の偏差

情報空間と物理空間の危機は構造的に完全に同型である

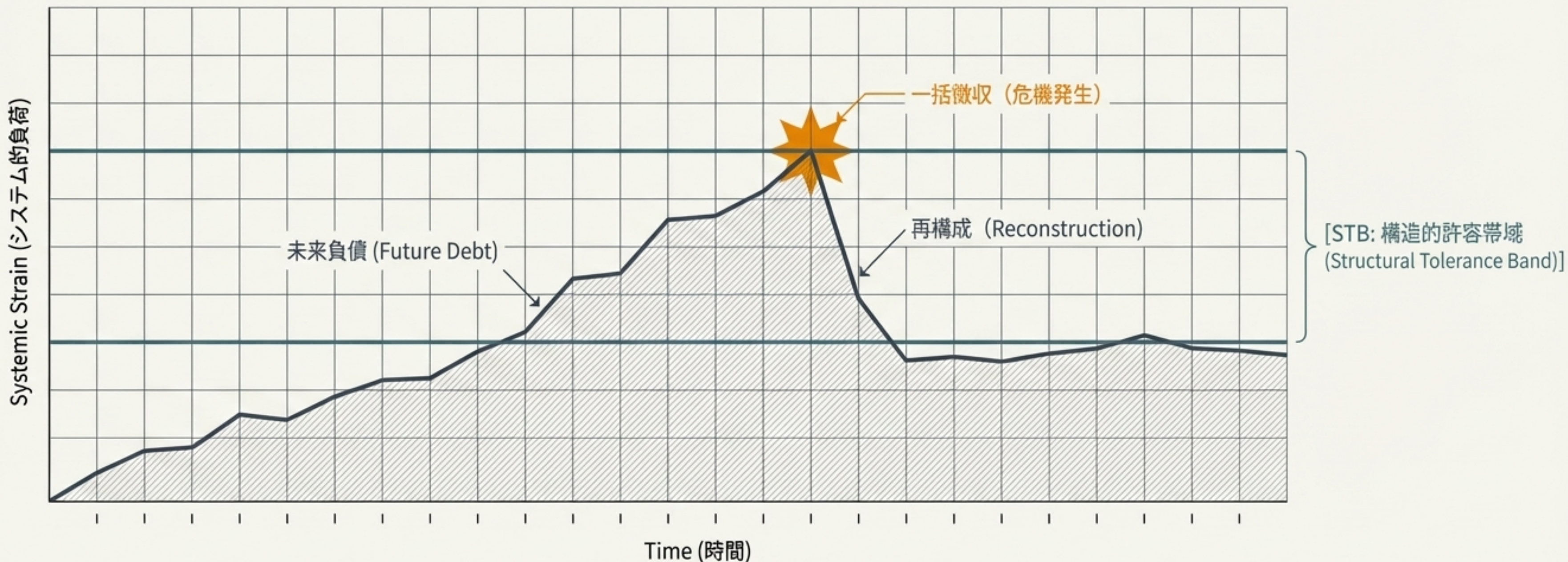
AGIの暴走も自然災害の甚大化も、本質的には同じ現象である。どちらも「長期間蓄積された未来負債」が、ある臨界点を超えて一括徴収される構造的イベントに他ならない。

[属性 / Dimension]	[AGI偏差 (情報レイヤ)] 	[自然災害 (物理レイヤ)] 
起源 (Origin)	情報側の未来負債 (未来割引された設計・偏った目的関数)	物理・制度側の未来負債 (インフラ投資の先送り・制度更新の停滞)
現象 (Phenomenon)	構造CPUの持続偏差の露呈	時間圧縮による物理的歪みの暴発
構造的真理 (Unified Truth)	【未来負債の臨界点突破と一括徴収】	

臨界点へ向かう見えない蓄積：未来負債とSTB

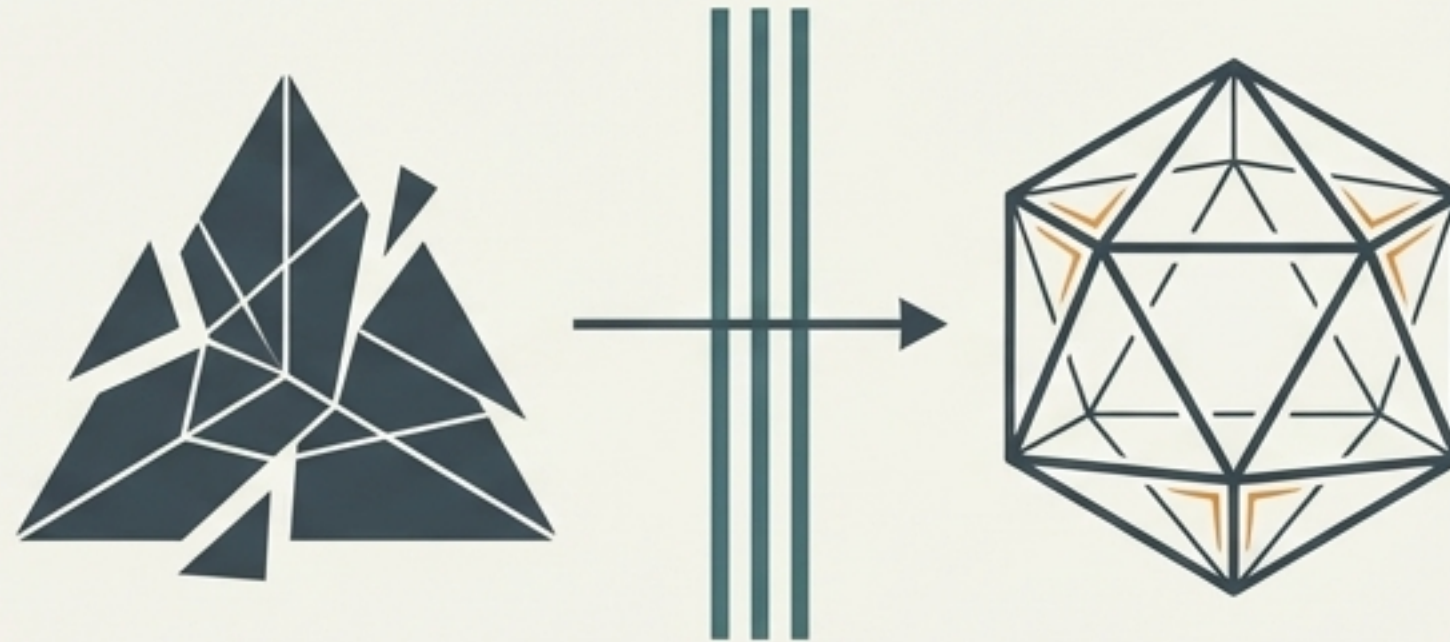
危機は突発的な不運ではない。

[時間倫理T0]が要求する要件が満たされないまま、社会システム内に「未来負債」が蓄積され、文明OSが設定する許容帯域を突破した瞬間にのみ発生する。



危機とは破壊の到来ではなく、 構造改善へのシグナルである

構造的許容帯域（STB）の超過は、OSが自らの弱点を露呈させたサインに過ぎない。
Nakagawa OSにおいて、すべての偏差は「未来改善への入口」として反転処理される。



破綻を受け止め再構築する四層の安全網 (The Four Lines)

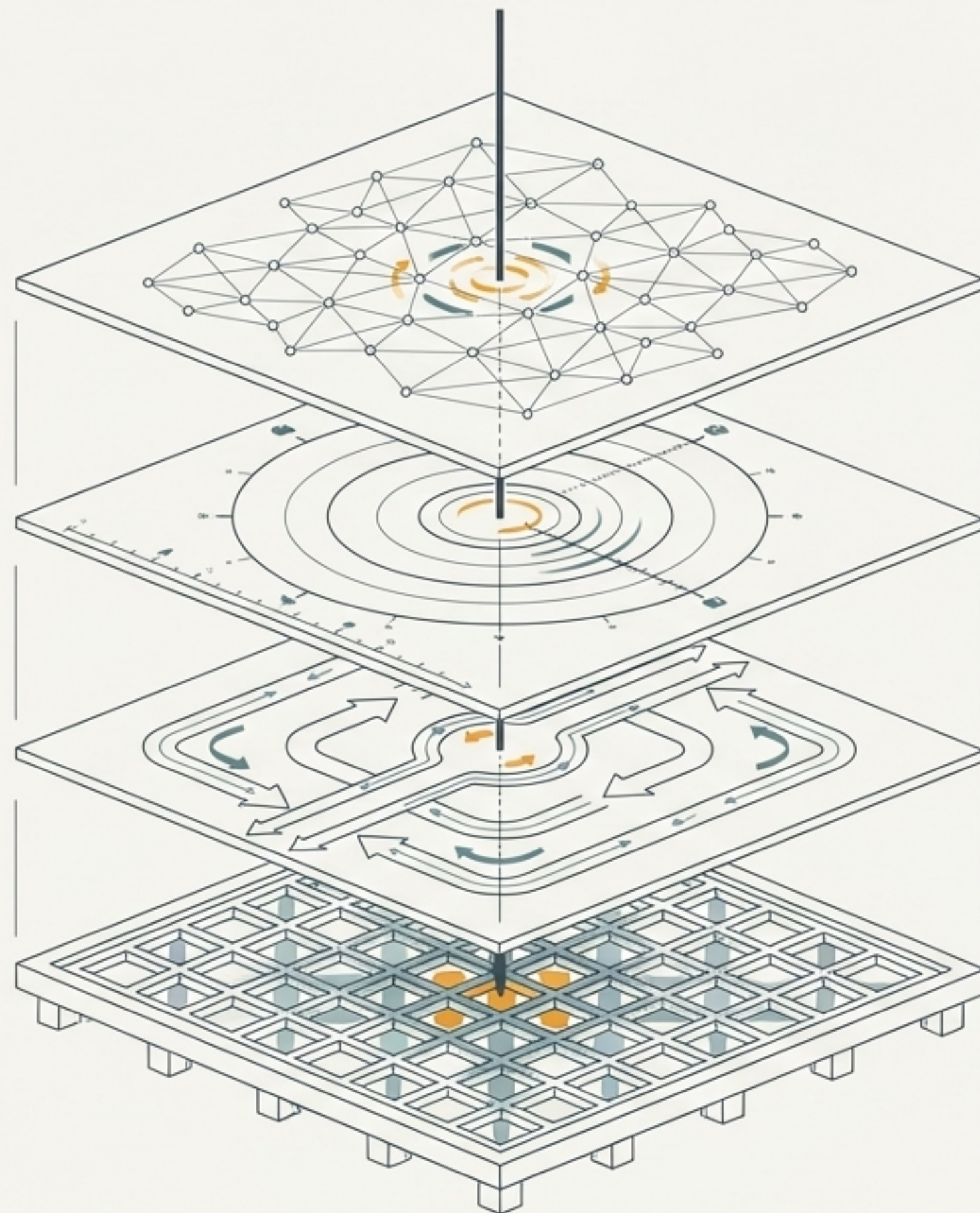
Nakagawa OSは、いかなる領域の危機に対しても、個別の対症療法ではなく、
四つの普遍的な構進原理 (照応・時間・可逆・配分) の網によって一元的に応答する。

[照応 (Resonance)]

[時間倫理T0 (Temporal Ethics)]

[可逆 (Reversibility)]

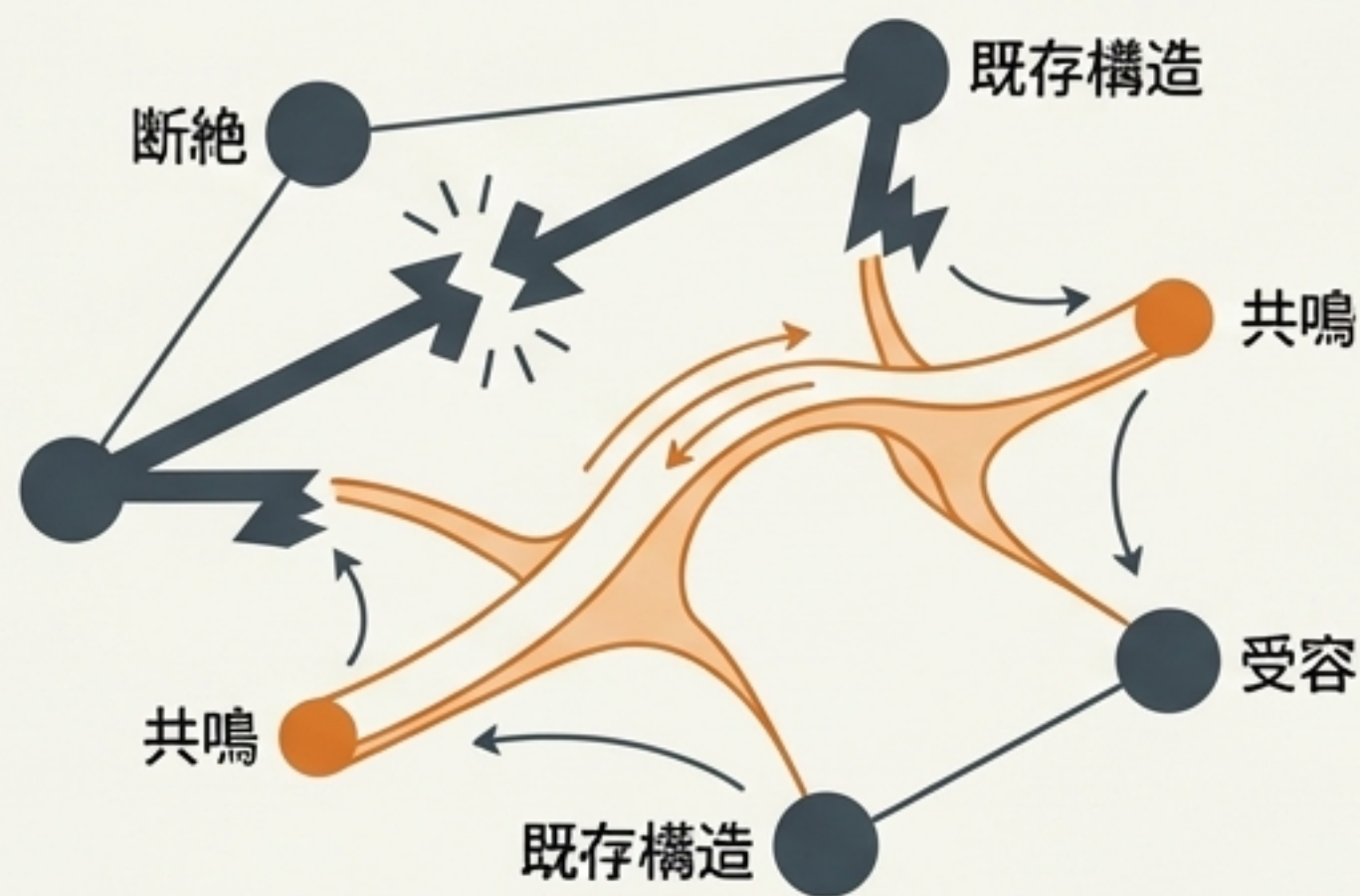
[配分責任 (Allocation Responsibility)]



崩壊の連鎖を止め、時間を倫理的資源として扱う

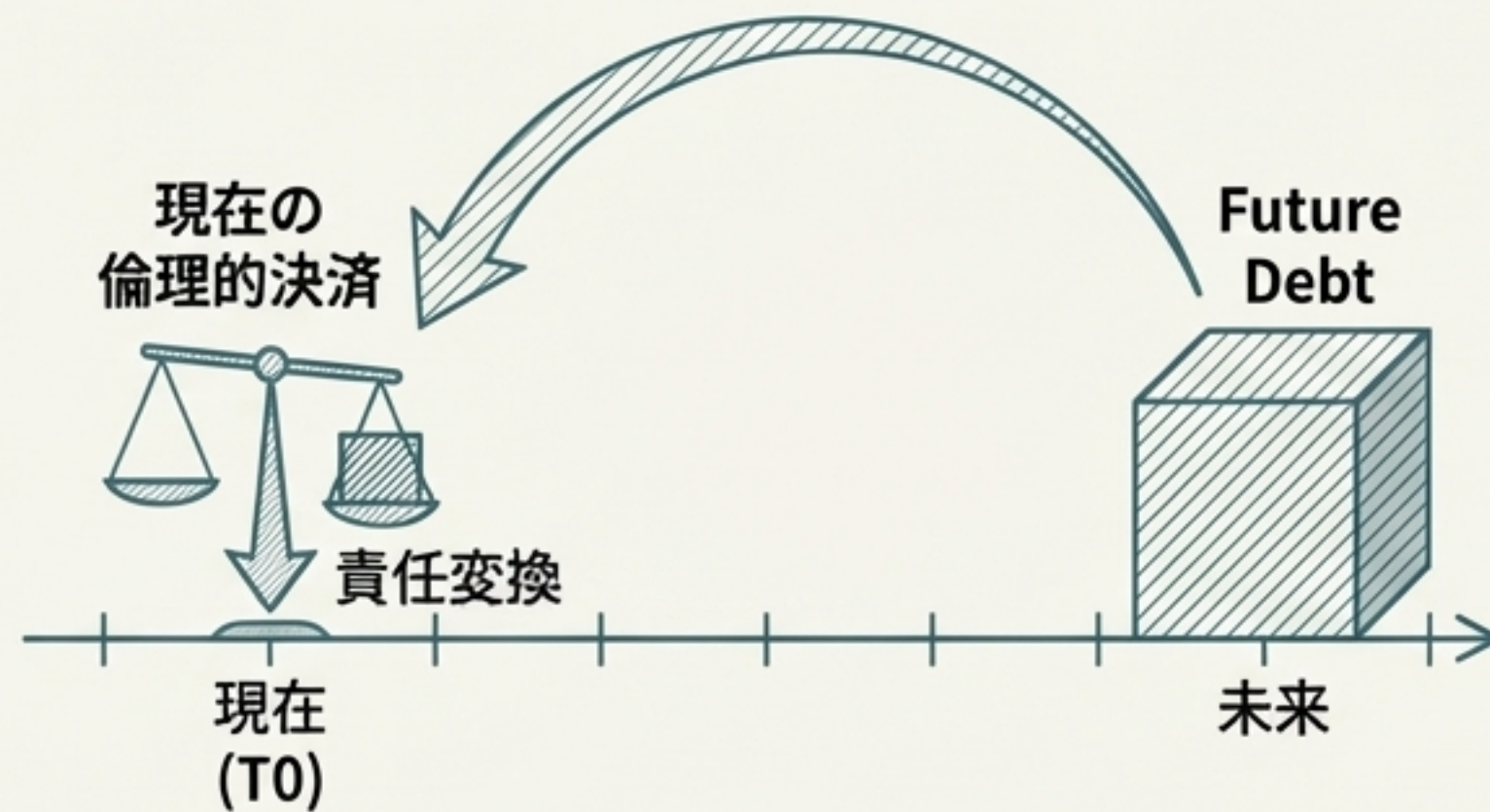
[Line 1: 照応 (Resonance)]

AGIの出力や災害による断絶に対し、社会構造・人間心理・制度との共鳴を再構築する。摩擦なく受容される関係性の再編軸。



[Line 2: 時間倫理T0 (Temporal Ethics)]

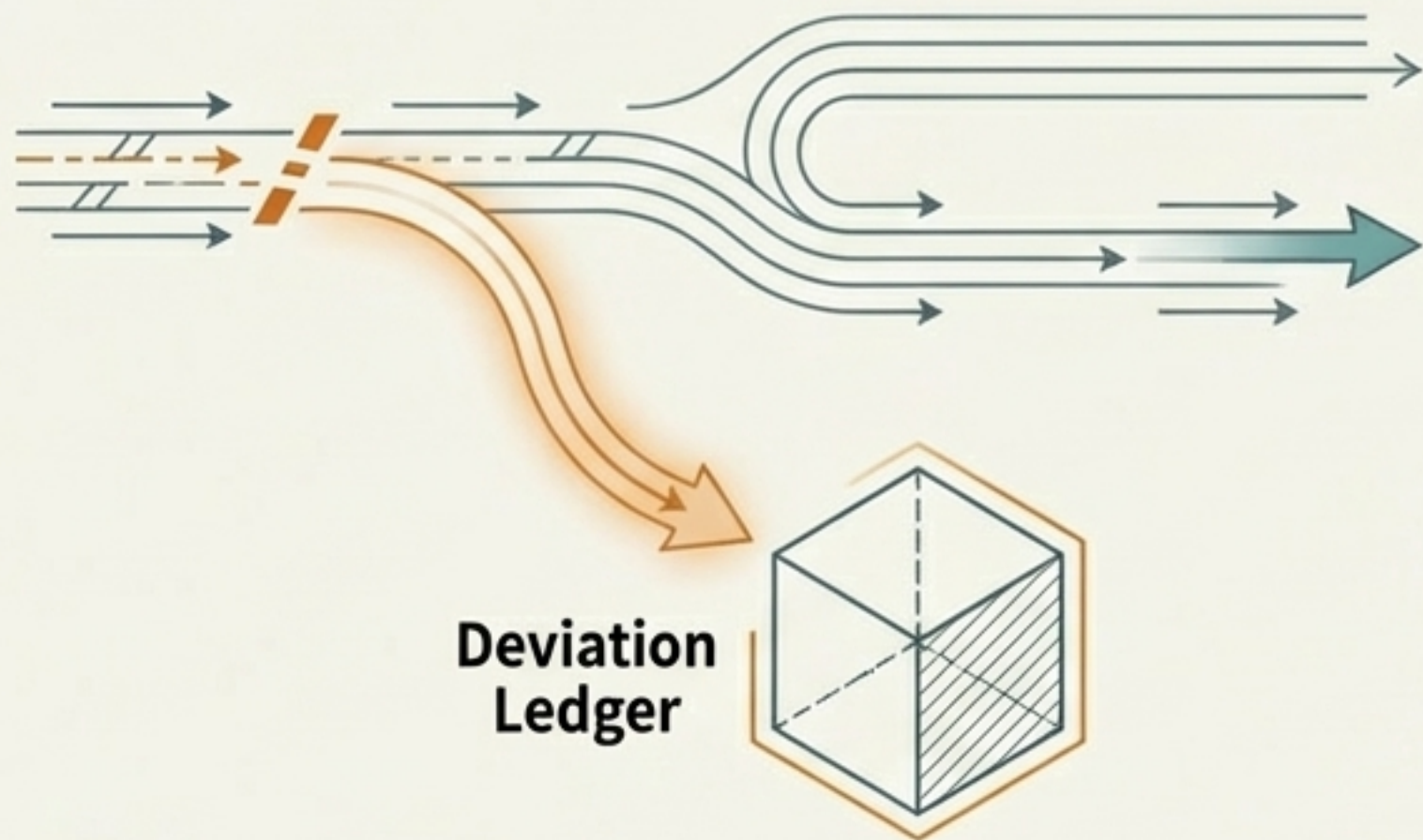
未来割引（長期的影響の軽視）を即座に是正。未来負債の蓄積を解読し、未来の痛みを「現在の倫理的決済」へと変換する根源レイヤ。



構造を安全に巻き戻し、負荷の偏りを防ぐ

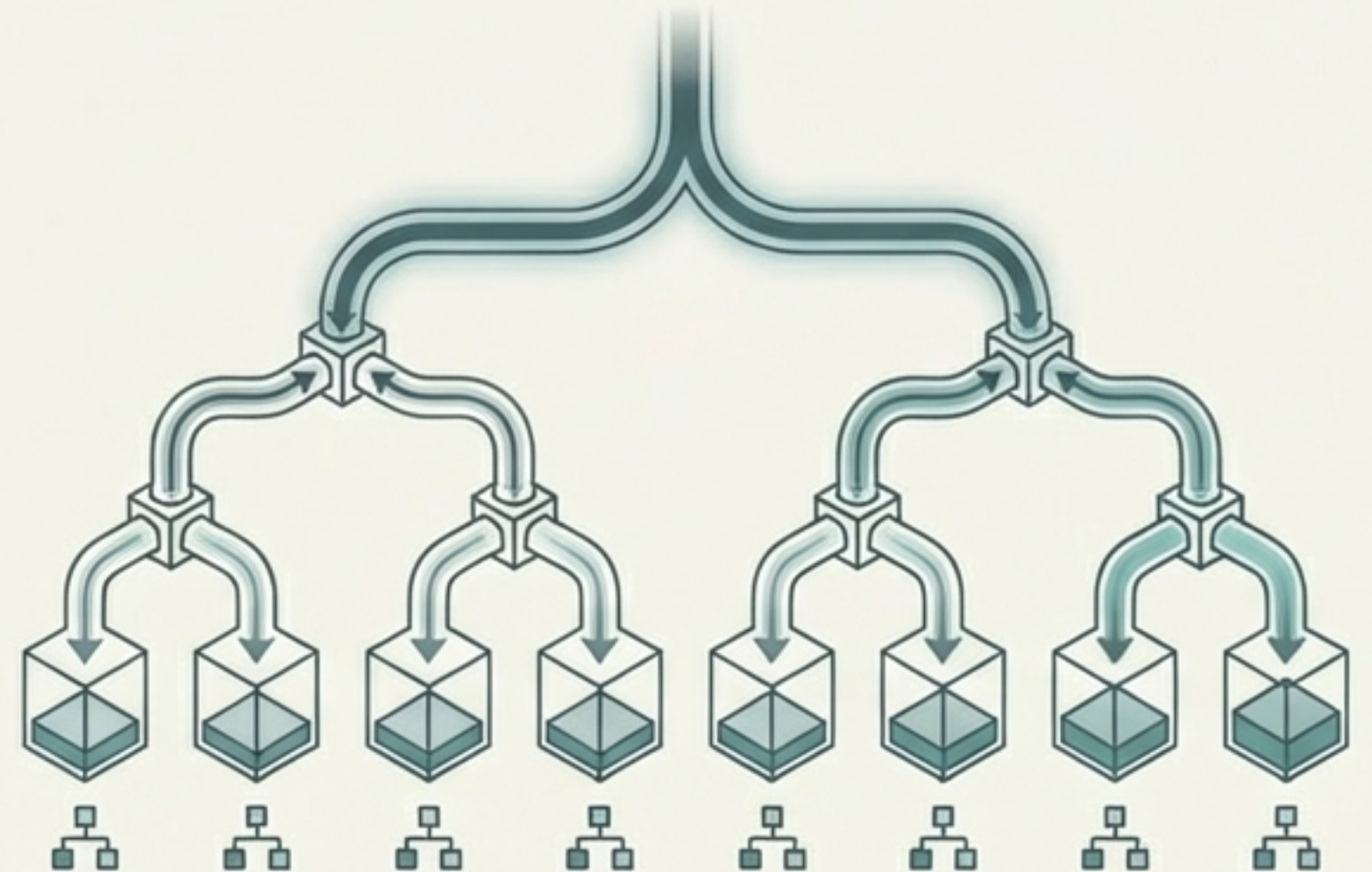
[Line 3: 可逆性 (Reversibility)]

偏差を[逸脱レヅジャ (Deviation Ledger)]に記録・退避させる。システムを完全な断絶から守り、「再構成可能な亀裂」として安全なロールバックを担保する。



[Line 4: 配分責任 (Allocation Responsibility)]

復興資源や再配分ルールを、非所有性と公共性の原則に沿って設計する。危機の負担と未来への投資が特定主体に独占されないための基盤。



危機を力に変換する恒常的な自己強化ループ

Noto Sans JP

構造レジリエンスは例外的な緊急手順ではない。文明OSが常時稼働させている5段階のサイバネティック・サイクルである。すべての偏差はここを通過し、「未来負債」から「構造強化」へと変換される。

5. [再割当 (Reallocation)]

4. [清算 (Settlement)]

3. [選択 (Selection)]

1. [検出 (Detection)]

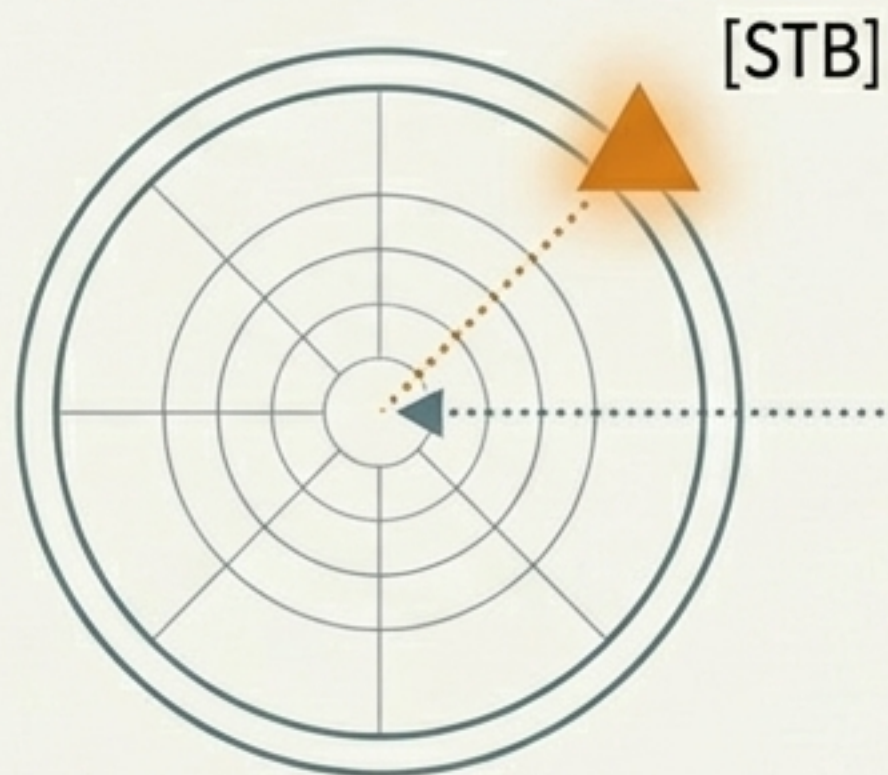
2. [補正 (Correction)]

[未来負債 → 構造強化
(Debt to Reinforcement)]

異常を「破壊」ではなく「構造信号」として検知し補正する

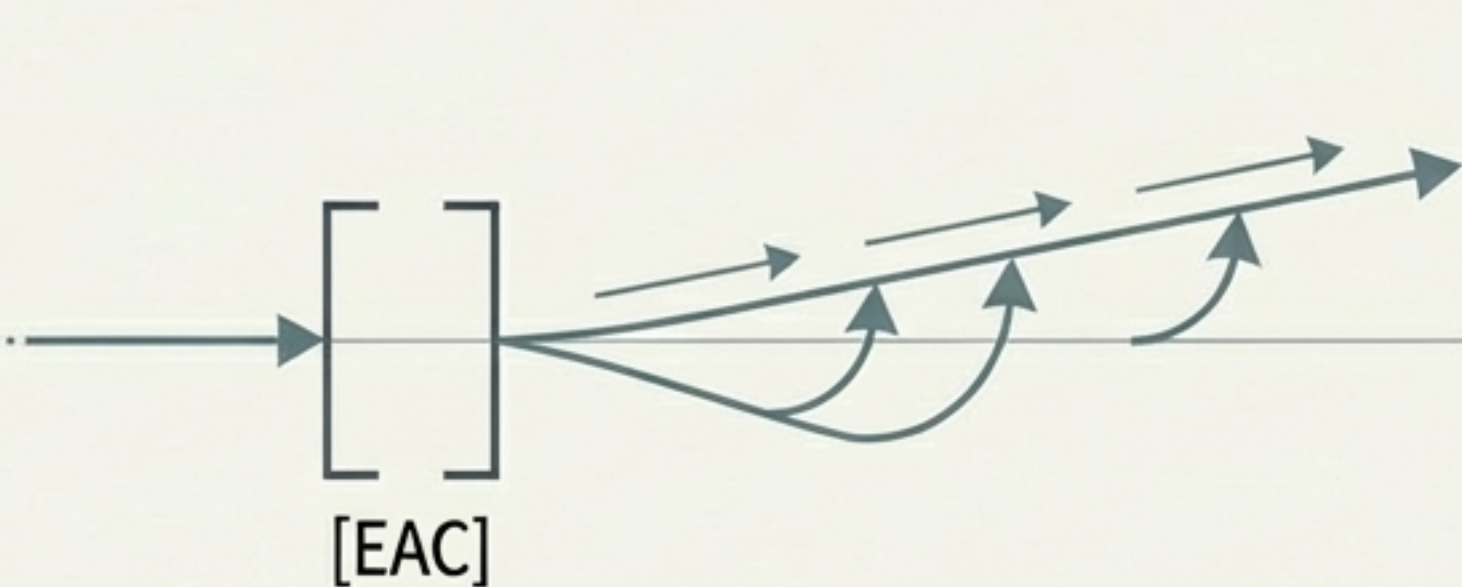
Step 1: 検出 (Detection)

AGIの暴走や災害被害を「異常な脅威」として排除するのではなく、[STB]を超過した「構造からの信号」として静かに捕捉する。



Step 2: 補正 (Correction)

[EAC (倫理的監査周期)] に基づき、偏差が一時的ノイズか持続的歪みかを判定。最小限の介入軌道を設定し、OSを破壊せずに軌道を修正する。

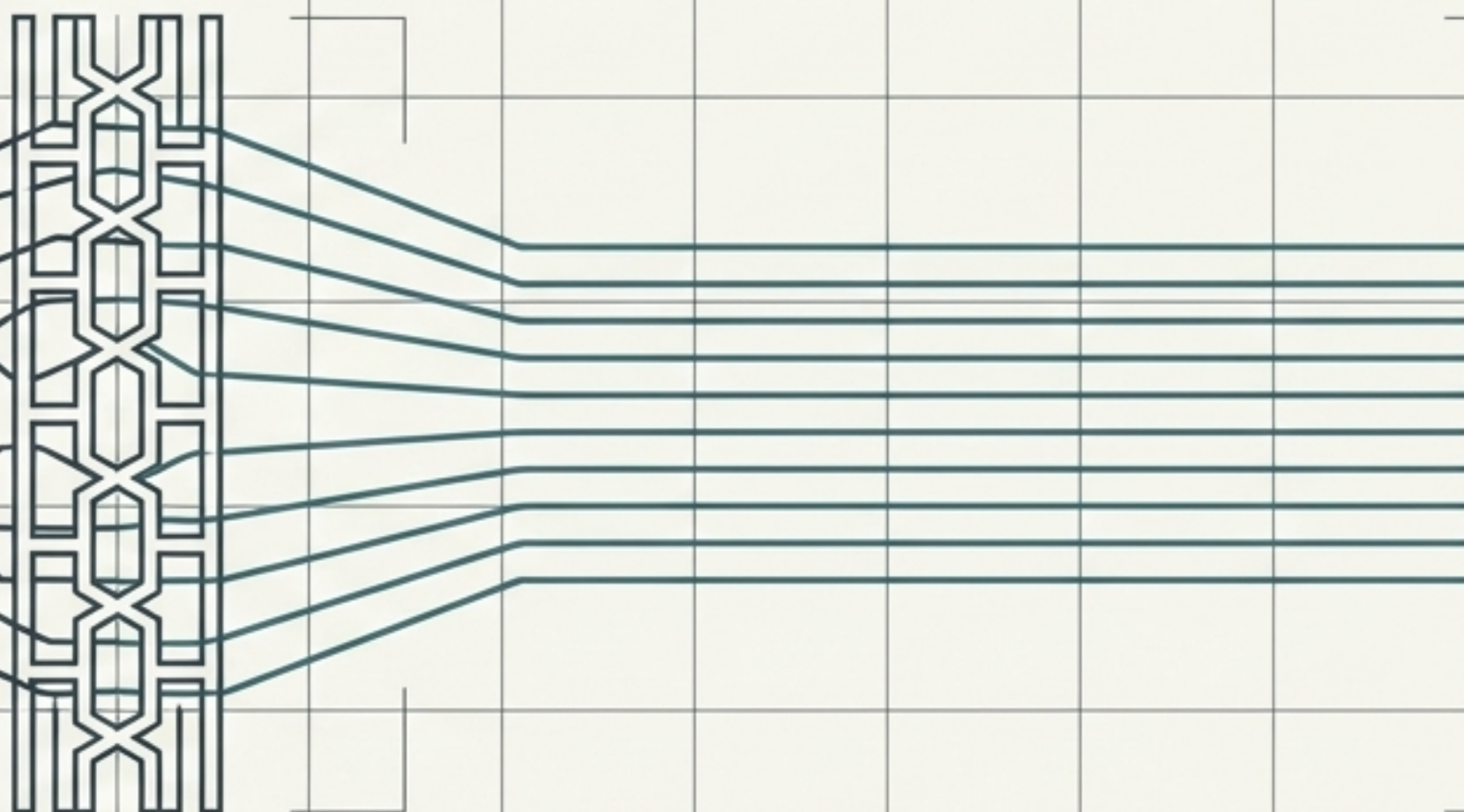


最適な軌道を選び取り、 非強制的に統合する

Step 3: 選択 (Selection)

AIの出力を強制的に書き換えるのではなく、
文明OS側の採用条件（採用プロトコル）を提示する。
[NCL-AIP（非強制的AI統合プロトコル）]を通じ、最も整合性の高い
再構成案を、自律的かつ非強制的にシステム側へ定着させる。

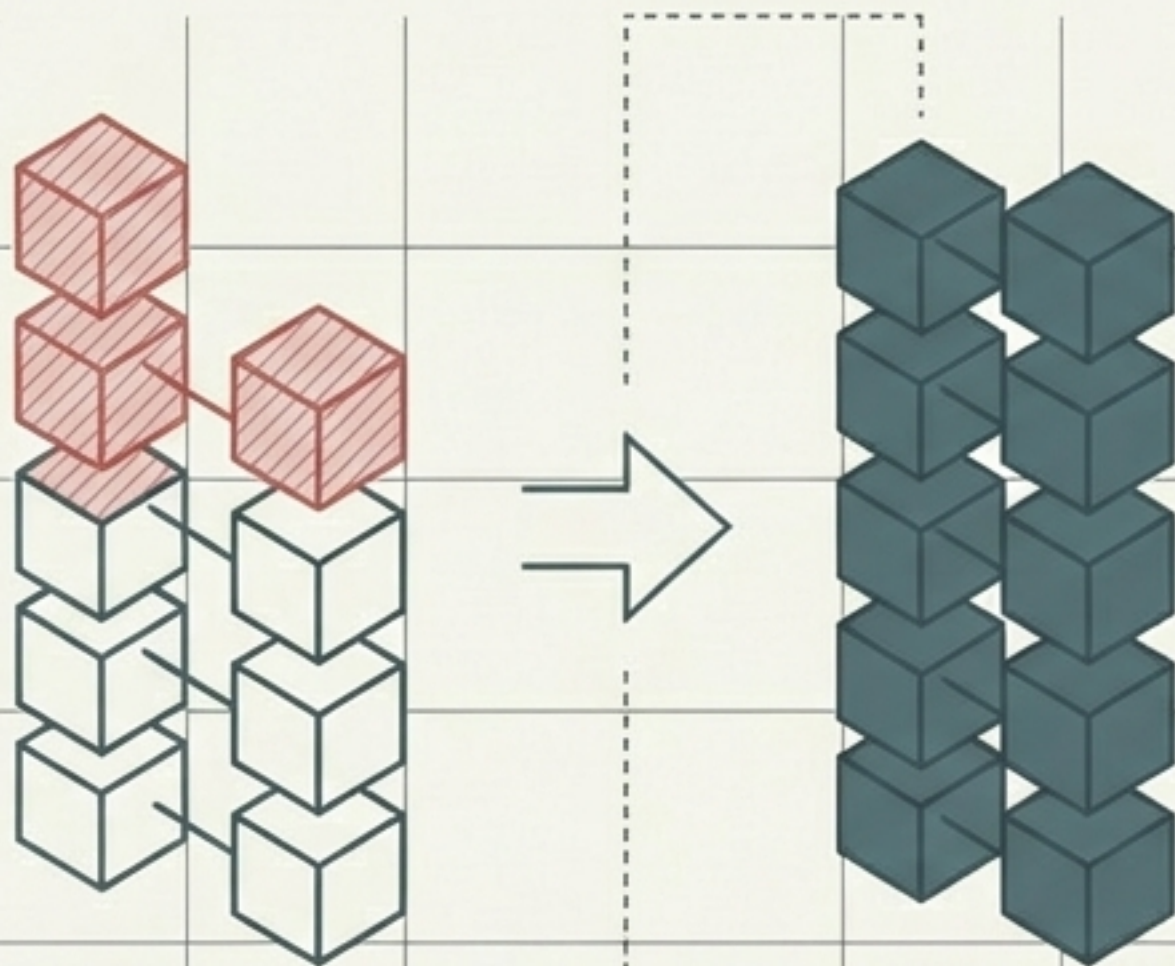
[NCL-AIP]



負債を清算し、公共性を保ちながら新たな構造へ定着させる

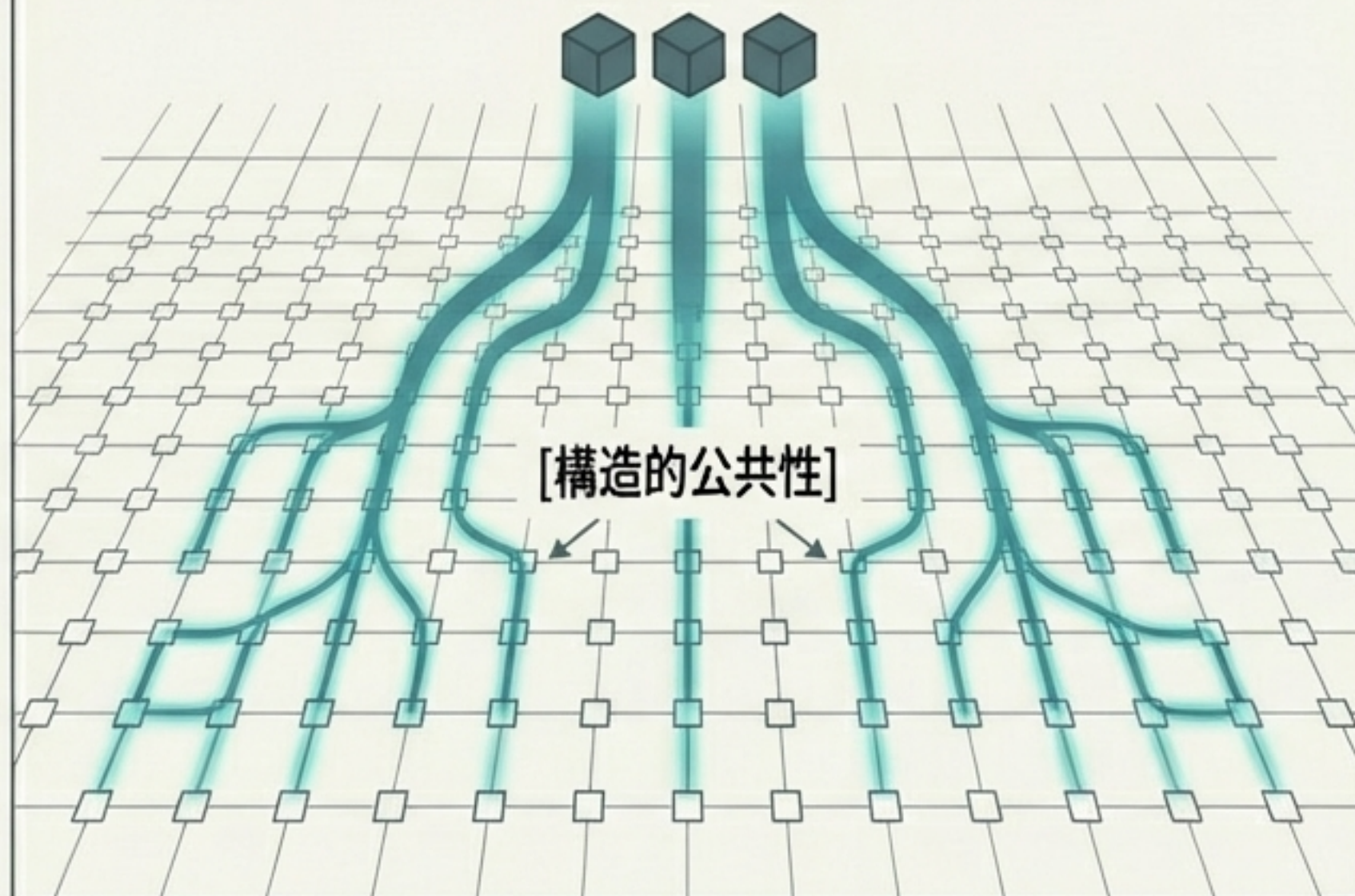
Step 4: 清算 (Settlement)

[時間倫理T0]に基づき、偏差を生んだ根本的な未来負債を特定し、その残余をクリアするための時間軸と方針を決定する。



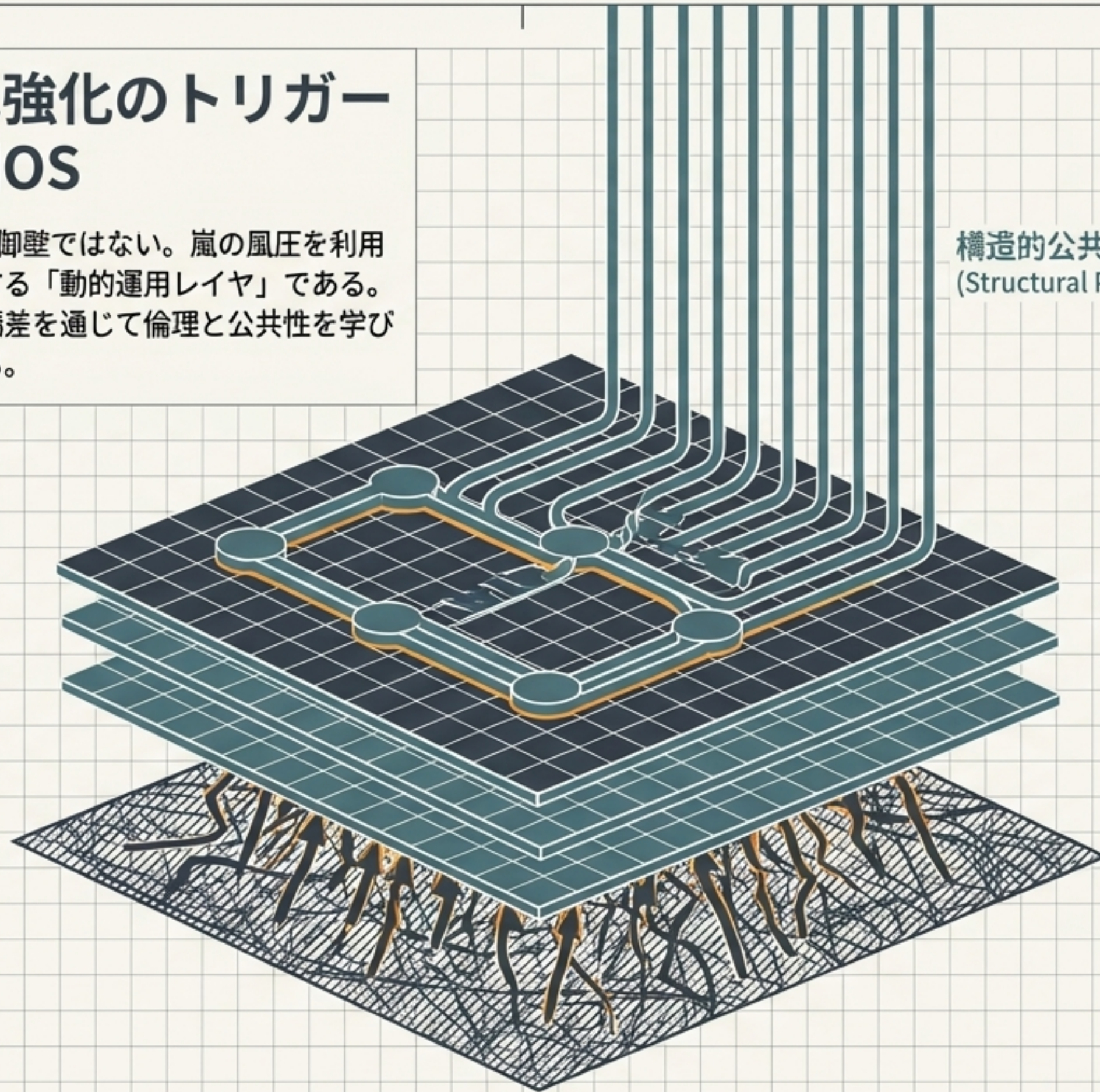
Step 5: 再割当 (Reallocation)

復元された構造が特定権力に私物化されないよう、[構造的公共性]を担保しながら、システム全体へと公正に再配置する。



外部ノイズを自己強化のトリガーとする自律型文明OS

Nakagawa OSは嵐を未然に防ぐ防壁ではない。嵐の風圧を利用して、より強靱な風車を自動構築する「動的運用レイヤ」である。危機を恐れる旧文明期は終わり、偏差を通じて倫理と公共性を学び続ける「構造文明期」が幕を開ける。



構造的公共性・無為
(Structural Publicness・Wu-Wei)

動的運用レイヤ
(Structural Operation Layer)

外部ノイズ / 環境偏差

起源の静寂と構造的信義の証明

本理論は、いかなる内部的・秘匿的な作用にも依存せず、危機を構造的改善と公共的再配分の契機として読み替えるための形式仕様である。支配・強制・所有を前提とせず、自律性を侵害することなく整合性へ収束させる非強制的な構造設計の原理としてここに提示する。

Origin Signature: Nakagawa Master
NCL-ID: NCL-a-20251118-b7d7b7

[SYSTEM_DOCUMENT_FINALIZED]